

「大阪維新の会の経済政策について」

平成 24 年 9 月 11 日

●やまなしやまなしさんからの質問

大阪維新の会が政党要件を満たしそうです。それに先立ち維新八策なるものも発表されました。自分にはそれが小泉構造改革の焼き直しに見えますし、経済政策がすべて供給側の立場に立ったものでしかなくデフレ解消には役に立たないように見え非常に不安を覚えます。この件で先生のお考えをお聞かせください。よろしく申し上げます。

●西田昌司の答え

「維新の会についてどう思いますか」という質問をよく受けますが、これまでは明言を控えてきました。彼らは言うては取り消しを繰り返すかつての民主党のようなところがありますのでいちいち反応しても仕方がないと思っていましたし、そのような訳で彼らの「維新八策」をしっかりと読んでいません。しかし、政党になるというのであれば私の考えをはっきりと述べたいと思います。

彼らは「小さな政府」を標榜しており、「非効率な官の仕事为民に渡せば競争原理が働いて効率が上がり、社会にお金が回って経済が発展する」という前提で政策を語っていますが、この前提自体が間違っています。効率を重視すると効率の悪い部門にはお金が回らなくなってしまうのです。

日本で一番効率の良い都市は東京です。JR や私鉄等の公共交通機関が発達しているので車を持たなくても自由にいろいろな場所に行くことが出来ますし、わざわざ郊外に住んで長い時間をかけて東京に出てこなくても立ち並んだ高層ビルに住めば不自由なく生活できます。東京には多くのお金が投資

され効率良くお金が回る仕組みが出来上がっています。

一方で地方を見ると、かつてはそれなりに栄えて都市を形成していた地域がどんどんと崩壊しており、商売をやっても成り立たないケースが多く、東京に出てきて商売する方が儲かってしまいます。このように効率を重視すると、富める東京にさらにお金が集中する一方、地方はどんどんと寂れて疲弊し、東京との差がますます大きくなります。小泉さんの時代の構造改革はこのような状況をますます加速させて個人や企業間の格差が拡大し、多くの国民が豊かさを実感できるかつての社会が失われ、一部の人々に富が集中する結果を招きました。その結果、全体の需要が減って経済のパイがどんどんと小さくなりデフレが進みました。

小泉さんの時代は政界だけでなくマスコミや経済界も一緒になって誤った構造改革路線を突っ走ってしまいました。その構造改革を批判していたはずの民主党が政権をとると彼らは「無駄の削減」を叫んで自民党以上の構造改革をやってしまい、経済は一層悪くなりました。国政に身を置くものになると「小さな政府」や「効率重視」といった考えが間違っていたことは今では明らかであり、構造改革の旗振り役を果たしてきた自民党内部では多くの議員が過去の反省からそのような認識を持っています。しかし、橋下さんなどはそういった現場にはいなかった為に理解できないのでしょうか。

「東京に比べて立ち遅れている大阪を何とかしたい、そのためにはもっと効率を良くしてお金を回していこう」といった考えで「小さな政府」を標榜すると、ますます東京への投資が進むことになってしまい大阪にとって好ましくないだけでなく、都市と地方の格差がますます広がるだけの結果となり、いいことは何もありません。週刊西田の西田ビジョン「西田昌司×青木泰樹経済対談」で、皆が構造改革に走った理由や構造改革の誤りを青木先生が述べられていますので、併せてご覧いただきたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>